

近森リハビリテーション病院 理学療法科

科長 高芝潤

はじめに

2020 年は 1 病棟 14 名体制（1 ユニット 7 名）を基本とし、理学療法士一人あたりの 1 日の取得単位 18 単位を目標とした運営を行った。また、各ユニットにつき主任 1 名、もしくは療法士長 1 名の管理体制をとり、ユニットの運営を行った。また、新人が 5 名入職し、コロナ禍の中で教育体制充実と、学術活動の強化を模索した。

運営・取り組み

4 月からの人員は入院 54 名、外来 2 名の体制で運営を開始となり、スタッフ一人当たり 18 単位の訓練実施を目標に進めた。病床稼働率は低下していたが、患者様に提供できる単位数はできるだけ充実できるよう調整を行い、患者一人当たりの実施単位数は、月間平均で最大 3.9 単位の実施につながった。また、コロナ禍の対策として、フロア単位での業務となり、人員的な効率性が低下したが、病床稼働率に応じた人員配置を行い、法人内での人員配置を含め検討を行った。また、業務の効率化を念頭に業務を進め、間接業務時間の短縮につながった。また、安全面での推進の成果として訓練中の転倒件数は軽減した。卒後教育としては運営から理学療法各論など 5 講座とリハ部として 7 講座の計 12 講座の卒後研修について web 研修を併用しながら実施した。また、学会発表については、split treadmill、脳卒中患者の疼痛についてなどの発表を行い、継続的な研究の足掛かりとなった。

実績

新規入院患者のうち、理学療法を実施した患者の疾患内訳では、脳血管疾患が 90%と多くを占めている（図 1）。「月別述べ入院患者実施単位数」は平均 17753 単位で、2018 年と比較し効率的な業務運用に伴い、同じ人員で単位数の増加を認めた。（図 2）。また、患者の 1 人あたりの実施単位数は 3.6 単位を取得し、患者一人あたりへの関わりは平均 1 時間以上を維持しており、訓練量を維持し訓練の質も担保できていた。

外来の「月別述べ外来患者実施単位数」は 4 月に介護保険への移行を進めたため大きく外来数が減少したが、回復期退院後の患者のフォロー外来を強化し 7 月には大きく外来数が増加していた。平均 162 単位で 2018 年と比較し単位数の減少を認めた（図 3）。

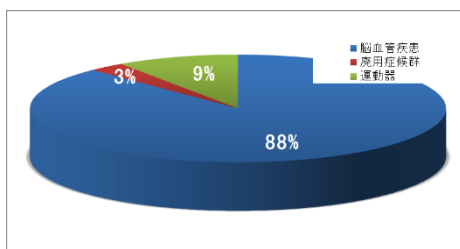


図 1 年間入院患者疾患内訳

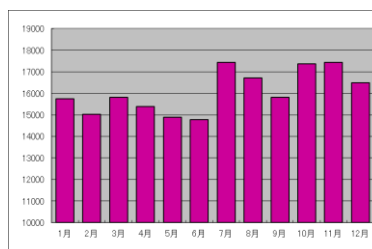


図 2 月別延べ入院患者実施単位数

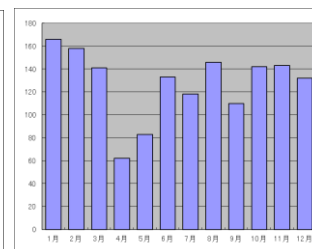


図 3 月別延べ外来患者実施単位数

おわりに

2020 年は、効率的な業務と管理体制の強化を目標に理学療法科の運営を進めた。役職者の業務の効率化、安全で安定した業務につながった。2020 年も継続し、管理運営の強化を図るとともに質の向上を患者満足度の向上を目標に、スタッフ教育の充実、個々のレベルアップに努めていきたい。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
入院脳卒中患者における 仏痛の実態—第 2 報 運動機能および心理社会的要因に着目して—	小笠原 舞 高芝 潤、川渕 宏美、江口智博、森岡 周	第 18 回神経理学療法学会	11 月 28～ 29 日 京 都
小脳性運動失調患者に対する Split-belt treadmill を用いた外乱刺激の効果	明神 早甫 高芝 潤、安村 広之、森岡周	第 18 回神経理学療法学会	11 月 28～ 29 日 京 都